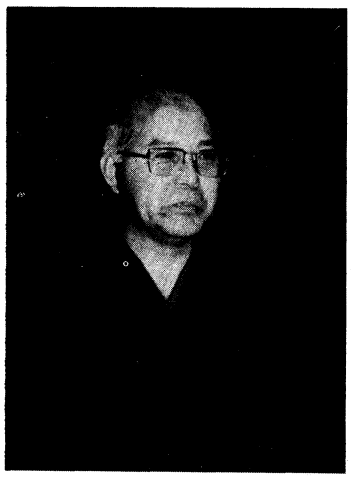
外は内を作り、内は外を作る

陶芸家
瀧田項一



〔筆者紹介〕

氏　名　瀧田　項一・たきたこういち

昭和　二年　栃木県烏山に生まれる
昭和二十一年　東京美術学校工芸科卒業
富本憲吉氏、浜田庄司氏に師事
昭和二十八年　日本民芸館新作展にて個人賞受賞
昭和三十四年　国画会会員。パキスタン美術大学陶芸科、主任講師に招かれ渡航
昭和三十七年　会津若松にて作陶を再開
昭和四十八年　西ドイツ、ケルンにて個展開催
昭和五十一年　個展、以後毎年開催
昭和五十四年　和光にて個展開催
昭和五十六年　西ドイツ、デュッセルドルフにて個展開催
昭和五十八年

むかし海軍兵学校には、大きな鏡が置いてあって、生徒はその前に立って自分の服装を正したものだそうだ。やがて士官となる者の身だしなみであり、自分を凝視(みつ)めることによって、己の心への戒めでもあった。

「外は内を作り、内は外をつくる」と言われる。仏門の修業の一つに身なりを良くする、ということがある。仏門にある修業僧が何故身だしなみを厳しくされるか、これは基本的な身辺の整理なのであろうし、また、その整理され身ずくろいが整った時、はじめて心の平静を得るのかも知れない。

内側さえ良ければ外側はどうでも良いと言う人がいるが、私は、そうは思わない。キチンと衣服を正すと、気持ちまでいつの間にかひきしまるものであるが、朝起きて顔も洗らわず、髭も剃らずに居ると一日中だらけて、とても我慢出来ないのは私だけであるまい。私は、仕事柄職人達との付き合いが多い。身だしなみをチャンとした職人は、その仕事もきちんとして居り、律義の人が多い。

いま、私の許に五、六人の修業中の若者が居る。朝、無精髭を生やした儘出て来ると、一喝する。「自分の顔の